

評価結果概要表

【評価実施概要】

| | | | |
|------|------------------|-------|------------|
| 事業所名 | グループホーム オアシスことしば | | |
| 所在地 | 山口県宇部市寿町3丁目2番5号 | | |
| 電話番号 | 0836-37-6512 | 事業所番号 | 3570200992 |
| 法人名 | 有限会社 レナール企画 | | |

| | | | |
|------------------|---|-------|-----------------|
| 訪問調査日 | 平成 21 年 5 月 11 日 | 評価確定日 | 平成 21 年 7 月 9 日 |
| 評価機関の 名称及び所在地 | 特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内 | | |

【情報提供票より】

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|------------------|-------------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 14 年 11 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員計 | 18 人 |
| 職員数 | 19 人 | 常勤 8 人 非常勤 11 人 (常勤換算 11.9 人) | |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|--------|-----|-------|
| 建物構造 | 鉄筋 造り | | |
| | 5 階建ての | 2 ~ | 2 階部分 |

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|--------|-------------|-------|-----|
| 家賃 | 月額 30,000 円 | 敷金 | 無 円 |
| 保証金 | 無 円 | 償却の有無 | 無 |
| 食費 | 日額 1,500 円 | | |
| その他の費用 | 月額 14,500 円 | | |
| | 内訳 光熱水費 | | |

(4) 利用者の概要 (5月11日現在)

| | | | | |
|------|-----------|---------|---------|---|
| 利用者数 | 18 名 | 男性 0 名 | 女性 18 名 | |
| | 要介護 1 | 7 | 要介護 4 | 0 |
| | 要介護 2 | 8 | 要介護 5 | 0 |
| | 要介護 3 | 3 | 要支援 2 | 0 |
| 年齢 | 平均 85.4 歳 | 最低 75 歳 | 最高 98 歳 | |

(5) 協力医療機関

| | |
|-------------|------------------------|
| 協力医療 機関名 | 医科 南園クリニック、仁心会病院 歯科 |
|-------------|------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

利用者のよりよい生活をめざすための記録類の整備と記録内容が大変充実しています。事前に家族から聞いた詳細な生活歴、センター方式のシートを使った利用者の思いや意向の把握、日々の生活記録は利用者一人ひとりに合ったケアプランに繋がり、運営推進会議での参加者からの意見や提言などの記録は、事業所全体のサービスの質の向上に活かされています。第三者委員に他のグループホームの管理者を迎え、運営推進会議にも出席してもらうなど、職員の交流会も含めたサービス運営に工夫されています。

(特徴的な取組等)

大きく開かれた2階の窓から見える公園の緑や、電車の走る風景が、利用者の穏やかな暮らしを支えています。法人や併設施設の協力体制により多機能性を活かしたきめ細やかな支援が行われています。特に、訪問看護師の定期的な訪問や、夜間であっても主治医の受診ができる24時間対応の医療連携体制は、利用者や家族の安心感に繋がっています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の外部評価結果についてカンファレンス等で話し合い、第三者委員の選任などできるところから改善に取り組まれています。

(今回の自己評価の取組状況)

管理者はカンファレンス時に自己評価の意義について説明し、職員は理解されています。職員は夜勤時に自己評価を確認し、記入できることを分担して行い、管理者がまとめておられます。

(運営推進会議の取組状況)

自治会長、民生委員、市高齢福祉課職員、第三者委員(他グループホーム管理者)、家族、利用者、職員等のメンバーで2ヶ月に1回開催されています。事業所の状況報告や自己評価の内容や外部評価結果で明らかになった課題について説明し、参加者から意見や助言等をもらうなど、意見交換をされ、サービスの向上に努めておられます。

(家族との連携状況)

3ヶ月毎に発行する事業所便りに、利用者の暮らしぶりや、写真、行事予定、職員の異動などを載せて報告する他、請求書を送付する時に個別の便りも出しておられます。面会の機会も多く、その時にも利用者の状況や金銭管理について知らされています。遠くの人にはメールで報告したり、電話でも知らせたり、意見や要望を聞くなど、家族との連携を図っておられます。

(地域との連携状況)

法人として自治会に加入し、地域活動の把握に努められています。周辺には公共施設が多く、いろいろな催し事に利用者と一緒に参加したり、自治会の草取り作業にも参加して交流されています。小学生の体験学習の受け入れや、高校生の実習などでの交流の機会もあります。毎朝の散歩の途中で近所の人と挨拶を交わすなど、地域との交流に努めておられます。

評価結果

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|--|---|----------------------------------|
| <p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p> | | | |
| 1 (1) | <p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p> | <p>「その人らしく、楽しく、ゆったりと安心して」という理念のもと、21年度は、「いろんな交流を持ち、地域へ情報を発信していく」という重点目標を掲げ、地域密着型サービスとしての役割りの理解に努めている。</p> | |
| 2 (2) | <p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> | <p>理念を事業所内に掲示し、管理者と職員はミーティングやカンファレンス等で理念や重点目標を共有しながら、日々のケアに活かせるよう積極的に取り組んでいる。</p> | |
| <p>2. 地域との支えあい</p> | | | |
| 3 (7) | <p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> | <p>法人として自治会に加入し、地域活動の把握に努めている。周辺には公共施設が多く、いろいろな催し事に利用者と一緒に参加したり、自治会の草取り作業にも参加して交流している。小学生の体験学習の受け入れや高校生の実習などでの交流の機会がある。毎朝の散歩の途中で近所の人と挨拶を交わしている。</p> | |
| <p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p> | | | |
| 4 (9) | <p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> | <p>管理者が評価の意義について説明し、職員は理解している。夜勤時に自己評価書を確認し、記入できるところは分担して行い、管理者がまとめている。外部評価結果については話し合い、第三者委員の選任など、できることから改善に取り組んでいる。</p> | |
| 5 (10) | <p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p> | <p>自治会長、民生委員、市高齢福祉課職員、第三者委員(他グループホーム管理者)、家族、利用者、職員等のメンバーで2ヶ月に1回開催している。事業所の状況報告や、自己評価の内容や外部評価結果で明らかになった課題について説明し、参加者から意見や助言等をもらうなど意見交換し、サービスの向上に努めている。</p> | |
| 6 (11) | <p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> | <p>市の担当課が近くにあり、散歩中に利用者と立ち寄り事もあるほど顔なじみになっている。市の担当職員とは、お互いに情報交換を行なっているほか、日常の相談にも応じてもらっている。</p> | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------|---|--|----------------------------------|
| 4. 理念を実践する為の体制 | | | |
| 7 (16) | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。 | 3ヶ月毎に発行する事業所便りに、利用者の暮らしぶりや写真、行事予定、職員の異動などを載せて報告するほか、請求書送付時に個別の便りなども出している。面会の機会が多く、その時にも利用者の状況や金銭管理等について知らせている。遠くの人にはメールで報告している。電話でも随時知らせるなど家族との連携を図っている。 | |
| 8 (18) | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。 | 家族の訪問時、電話、運営推進会議等で意見や要望などを聞き、運営に反映させている。苦情相談窓口及び担当者、外部機関、第三者委員、苦情解決責任者を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。 | |
| 9 (20) | 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。 | 2ユニットで常勤8名、非常勤11名の職員を確保し、利用者の状況の変化や要望に応じたり、行事や通院介助、職員の急な休みや夜勤の交代など柔軟に対応できるよう勤務の調整に努めている。 | |
| 10 (21) | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。 | 職員と利用者の馴染みの関係が続けられるように、職員の異動を最小限に抑えている。離職があった場合は、1ヶ月程度の重複勤務ができるようにして、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。 | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 11 (22) | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 外部研修は、勤務の一環として、段階に応じて受けられるよう配慮し、内部研修は2ヶ月に1回行なっている。介護福祉士などの資格取得も法人として積極的に応援している。 | |
| 12 (24) | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 | 山口県在宅老所・グループホーム連絡会に加入し、研修や交流会に参加している。宇部・山陽小野田ブロックの研修会、宇部市内の同業の管理者同士の勉強会などに参加し、交流や情報交換を行なってサービスの質の向上に取り組んでいる。 | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取 組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|---|--|----------------------------------|
| <p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p> | | | |
| 13 (31) | <p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p> | <p>入居前に家族と一緒に事業所を見学してもらっている。他の利用者や職員と一緒にお茶を飲んだり、おやつを食べてもらい、雰囲気を体感してもらうなど、徐々に馴染めるよう工夫している。</p> | |
| <p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p> | | | |
| 14 (32) | <p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p> | <p>職員は利用者と共に生活するというを大切にしている。日々の会話や暮らしの中で、利用者からいろいろな事を学び、支えあう関係を築いている。食事では、一週間の献立を一緒に作り、食材を買いに行ったり、利用者の好きな一品を作ってもらったりなど、日々を楽しく過ごせるよう支援している。</p> | |
| <p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p> | | | |
| 15 (38) | <p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p> | <p>アセスメントで家族からの情報や生活歴等を詳細に把握している。日々の利用者の会話、表情、行動の中から希望や意向の把握に努め、センター方式のシートを利用するなどして本人本位に検討している。</p> | |
| <p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p> | | | |
| 16 (41) | <p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p> | <p>ユニット毎のカンファレンスを月1回、合同のカンファレンスを2ヶ月に1回開催し、把握している利用者の意向や課題、面会時や電話等で聞いた家族の意見などを参考にして話し合い、介護計画を作成している。2週間毎に訪問診療を行なっている主治医の意見も取り入れている。</p> | |
| 17 (42) | <p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p> | <p>3ヶ月に1回の定期的な見直しのほか、状態の変化や問題が発生した場合は、随時見直しをし、現状に即した介護計画を作成している。</p> | |
| <p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p> | | | |
| 18 (44) | <p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p> | <p>医療連携加算での医療体制の充実が図られている。受診の送迎や付き添い、帰宅願望の強い利用者への自宅までの外出の支援、買い物や図書館利用の支援など、利用者のその時々々の要望に応じた支援をしている。</p> | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取 組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|--|---|----------------------------------|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | |
| 19 (49) | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | 協力医による月2回の往診や、利用者個々の病歴に関わる他の医療機関への継続受診の支援をしている。定期的な歯科の訪問診療もあり、口腔ケアの指導や義歯調整をしてもらっている。希望する利用者には受診の送迎や付き添いをするなど、適切な医療を受けられるよう支援している。 | |
| 20 (53) | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。 | 「重度化した場合における対応に関する指針」があり、職員間で共有すると共に、入居の際に利用者及び家族に説明している。主治医、看護師、病院との連携体制も取れている。 | |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重 | | | |
| 21 (56) | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。 | 利用者に対する尊敬の念や言葉づかいに関する事は、内部研修で事例を挙げながら検討している。特にせかしたり追い立てるような言葉には、その都度注意しており、現在では殆んどなくなっている。個人情報の取り扱いにも細心の注意を払い適切に管理している。 | |
| 22 (59) | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。 | おおよそその一日の流れは決まっているが、制限をしないように心がけ、利用者のリズムやペースで過ごせるよう支援している。 | |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 23 (61) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 週に3回、利用者と職員と一緒に献立を立て、食材の買い物に行き、調理、盛り付け、食事、後片づけなどしながら、楽しい時間を過ごしている。減塩食や魚が嫌いな利用者には、別のものを用意したり、利用者の健康状態や好み、嗜好に沿って支援している。 | |
| 24 (64) | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。 | 入浴は14時から18時ごろまでの間、一人ひとりゆっくり入られるように支援している。職員との会話を楽しみながら「風呂が一番ええ」と気持ち良さそうに歌を歌う利用者もあり、入浴が楽しめるよう支援している。 | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取 組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|---|--|----------------------------------|
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | |
| 25 (66) | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。 | 一人ひとりのできる力を引き出し、日々の生活の張り合いとなるような場面づくりを行なっている。毎日の歌やゲーム、テレビ体操などの他、貼り絵、ぬり絵、スケッチ、洋裁、小物作り、草取り、買い物、ドライブなど、いろいろと変化に富んだ楽しみごとや気晴らしの支援をしている。 | |
| 26 (68) | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。 | 利用者の体調を見ながら、一人ひとりの希望にそって、散歩、買い物、ドライブ、催し物の鑑賞などの支援をしている。 | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | |
| 27 (74) | 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。 | 身体拘束については内部研修で学び、職員全員で理解を深めており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。特にスピーチロックについては、ミーティングや、その都度職員同士お互いに注意し合うなど、日頃から気をつけている。 | |
| 28 (75) | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。 | 日中は鍵をかけていない。帰宅願望のある利用者には、職員が気配りし、時には一緒に外出して、本人が納得してから事業所に帰るように支援している。 | |
| 29 (78) | 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。 | 事故・ヒヤリはっと報告書に記入し、ミーティングで改善策を検討して、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。個々の事故防止への対策は介護計画の中に採り入れている。 | |
| 30 (79) | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。 | 緊急対応マニュアルがあり、知識として学んでいるが、定期的な訓練は行っていない。今年度、AEDを含めた救急救命講習の受講を予定している。 | ・定期的な訓練の実施 |
| 31 (81) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。 | 年に2回消防署の協力で避難訓練(夜間を想定した訓練も含む)を実施し、非常時に備えている。運営推進会議で地域との連携を議題に取り上げているが、地域の人々の協力を得られるような働きかけまでには至っていない。 | ・地域から協力を得るための働きかけ |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取 組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---|---|---|----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | |
| 32 (84) | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。 | 利用者の服薬内容(目的、副作用、用法、用量)について、職員は理解している。服薬の都度、職員が名前を確認し、手渡しして、飲み終えるまで確認している。必要な情報は医師や訪問看護師にフィードバックしている。 | |
| 33 (86) | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。 | 食後の口腔ケア、義歯の洗浄、歯ブラシの清掃、保管などについて、一人ひとりの口腔状態に応じて支援している。利用者によっては定期的に訪問歯科診療を受け、口腔ケアや義歯の調整を行っている。 | |
| 34 (87) | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 食事の摂取量や水分量をきちんと把握し、一人ひとりの状態に応じたカロリーや栄養バランスに配慮した食事を提供している。ただ、週3回の事業所独自での調理は、栄養バランスの把握がされていない。 | ・ホームで調理する献立の栄養バランスの調整 |
| 35 (88) | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。 | 感染症マニュアルがあり、予防や対応の取り決めに従って、早期発見や早期対応に努めている。職員は外部研修や法人内研修等で感染予防の学習も行っており、予防の為に手洗いやうがいの励行を実行している。 | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり | | | |
| 36 (91) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。 | 大きな窓ガラスからは、事業所の向かいにある公園の緑が良く見え、季節に合わせた生け花や飾りのある共用空間は、明るく温かな居心地の良いたたずまいとなっている。仲の良い利用者同士が話し合ったりできるように、ソファや椅子、畳のコーナーがあるなど配慮している。 | |
| 37 (93) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 持ち込みについては入居前に本人や家族と相談し、使い慣れたタンスや机、家族の手作り作品、写真や絵画、テレビなどが持ち込まれている。利用者の混乱を防いだり、安心感をもって過ごせるよう工夫している。 | |

自己評価書

【ホームの概要】

| | |
|-------|------------------|
| 事業所名 | グループホーム オアシスことしば |
| 所在地 | 宇部市寿町3丁目2番5号 |
| 電話番号 | 0836 - 37 - 6512 |
| 開設年月日 | 平成 14 年 11 月 1 日 |

【実施ユニットの概要】 (4 月 1 日現在)

| | | | | |
|---------------|-----------|---------|---------|--|
| ユニットの名称 | 如月 | | | |
| ユニットの定員 | 9 名 | | | |
| ユニットの 利用者数 | 8 名 | 男性 0 名 | 女性 8 名 | |
| | 要介護 1 | 4 | 要介護 4 | |
| | 要介護 2 | 4 | 要介護 5 | |
| | 要介護 3 | | 要支援 2 | |
| 年齢構成 | 平均 82.4 歳 | 最低 74 歳 | 最高 91 歳 | |

【自己評価の実施体制】

| | |
|-------|--|
| 実施方法 | カンファレンスで自己評価に取り組んでいくことをスタッフ皆で確認し、記入できるところを分担して行い、管理者が全体的にまとめて作成した。作成後、再度スタッフの確認を得て完成させる。 |
| 評価確定日 | 平成 21 年 4 月 23 日 |

【サービスの特徴】

立地条件に恵まれているため、外出の機会は本当に多く、すぐ傍を流れている塩田川沿いの花壇を眺めながらの散歩が日課となっています。道路も一方通行で歩行時には安全を確保しやすくなっています。宇部市の中心街なのでお店や文化的施設も多く、いろいろな催し物にも参加できています。

また、単独型ではなく、複合施設の2階部分にあるため、他の部署との職員とも交流を持って、なじみの関係だけでなく、いろいろな人とのかわりを持つことができている。

医療の面では、24時間体制で行えるよう医療連携の連絡体制もしっかりと確立させています。月2回の主治医の訪問診療、そして月2の訪問看護師が定期健診を行い、グループホームからの病状悪化時の連絡には昼夜を問わず連絡を入れられるように体制を整えてあります。深夜の主治医の往診も必要時には行っています。

食事は、火、木、土の昼食は利用者様と一緒に考えた献立を利用者様と一緒にスタッフが買い物(前日に買出し)から調理まで行っています。その他の食事は施設内の厨房から準備されたものですが、ご飯、汁物は食堂にて準備をしております。病状にあわせて減塩食や油禁食なども準備をさせていただいています。

ボランティアの受け入れとしては、本読みの会の方が月1回個別に訪問をいただいております。その他としては月1回の全館の誕生会の際にコーラスや日舞、マジック等、様々な団体の方をお招きして皆さんに楽しんでいただいております。

利用者様に『あ～今日も楽しかった』と感っていただけよう、本当に心から『嬉しい』『楽しい』と感じていただき、そして利用者様の『生きる力』を引き出せるように支援してまいります。

自己評価票

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取 組んでいき たい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------------|--|------------------------|---------------------------------|
| <p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p> | | | |
| 1 (1) | <p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p> | | |
| 2 (2) | <p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> | | |
| 3 | <p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p> | | |
| 4 | <p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p> | | |
| 5 | <p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> | | |
| <p>家族</p> | | | |
| 6 | <p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p> | | |
| 7 (3) | <p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> | | |
| 8 | <p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|---|---|---------------------------------|
| k | | | |
| 9 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。 | 自己評価後、外部評価後にカンファレンス等で内容を確認しあい改善点を検討している。 | |
| 10 (5) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。 | 評価後の運営推進会議で報告する時間を持ち、家族の方からの質問などにもお答えしている。 | |
| 11 (6) | 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。 | 高齢福祉課、介護保険課の方に相談することも多く、その都度丁寧にお答えをいただいている。高齢福祉課は歩いていける距離にあるため利用者の方々と散歩の途中に立ち寄りすることもある。 | |
| 12 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。 | 研修などで学んでいる。利用される方が入居されたが、入院のため退居となり関係者の方と接する機会は少なかった。 | |
| 13 | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 研修等で学ぶ機会を持っている。利用者の方の尊厳を守るケアについては周知徹底している。 | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | |
| 14 | 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 入居時の契約時に契約書、重要事項説明に沿って説明を行っており、途中で何度か質問を受けられるような方法をとっている。 | |
| 15 | 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 管理者や職員は利用者の方の意見に耳を傾けるような姿勢はとるようにしているが、外部者へ表せる機会は難しいため、家族の方からの情報を得るようにしている。 | |
| 16 (7) | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。 | 面会時にお話をする機会を必ず設けるようにしている。個別のお便りなども出し、運営推進会議でも報告させていただくようにしている。 | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|---|----------------|---------------------------------|
| 17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。 | 介護記録等などはいつでもお見せできるようにしている。 | | |
| 18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。 | 苦情相談窓口を明記した文書をホームの入り口に貼り出している。第三者委員も外部の方にお願ひし、運営推進会議への参加もお願いできている。会議前はホームに早めに来られ、利用者の方々へ話しかけなどもしてくださっている。 | | |
| 19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 幹部会にて管理者は運営者に意見をいう機会がある。また状況に合わせて電話や訪問にても意見を言える。また、カンファレンスにてスタッフは管理者へ意見、提案をすることができる。 | | |
| 20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。 | 行事や通院介助、また病状の悪化時には勤務を調整してスタッフの数を適宜増やしている。 | | |
| 21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。 | 他部署への異動はほとんどなし。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 外部研修を勤務扱いとして参加できるよう配慮している。施設内研修も勤務終了後に夜勤者以外が受けれるような時間帯に設定している。 | | |
| 23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。 | 30代～60代の職員を配置し、さまざまな経験を活かして利用者の生活をより豊かにするように心がけている。 | | |
| 24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 | グループホーム連絡協議会へ入会しており、研修のお知らせの際には行ける職員は参加するようにしている。他のグループホームや施設の職員との交流もあり、ホームへの訪問なども受けている。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|--|----------------|---------------------------------|
| 25 | 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。 | | |
| 26 | 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。 | | |
| 27 | 職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。 | | |
| . 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 28 | 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。 | | |
| 29 | 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。 | | |
| 30 | 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | | |
| 31 (13) | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | |
| 32 (14) | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|----------------|----------------------------------|
| 33 | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。 | | |
| 34 | 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。 | | |
| 35 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | | |
| 36 | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。 | | |
| 37 | 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。 | | |
| . その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握 | | | |
| 38 (15) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | | |
| 39 | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | | |
| 40 | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取 組んでいき たい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------|--|---|--|
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | |
| 41 (16) | チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。 | キーパーソンの方だけでなく本人を支えておられる家族みなさんから情報をいただき、利用者の生活が向上していけるような介護計画を担当とも話し合いながら作成している。 | |
| 42 (17) | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。 | 家族に状況をお話し、介護記録の短期目標を早急に加え、その後、介護計画を変更するようにしている。 | |
| 43 | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 業務記録に個々の気づきなどを記入して勤務者がすぐに情報を共有できるようにしている。また排泄や一日の気持ちの流れを把握していた方がよい利用者の方の24時間シートを作成し対応をしていっている。 | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | |
| 44 (18) | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。 | 計画に縛られることなく利用者、家族の方々の要望には即時対応できるようにしている。 | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | |
| 45 | 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。 | 民生委員さんから文化会館等での催しもの情報などをいただき出かけることがある。また警察署の総務係長さんからも県警音楽隊が来られるときに招待をいただき、皆で宇部本署まで出かけていき皆さん楽しまれた。 | |
| 46 | 事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。 | 相談対応や教室等の開催はしたことはないが、介護福祉士会などの集まりの会場として受け入れたことはある。ボランティア等の見学・研修の受け入れは要請があればいつでも受けれる体制はできている。 | 認知症キャラバンメイトとして登録させていただいたので近くのキャラバンメイトの方と連携をとりながら認知症サポーター養成講座などを開催できたらと思っている。 |
| 47 | 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。 | 靴やシルバーカーなどを購入されるときは福祉用具販売店のコーディネーターの方に相談し、利用者に合ったものを準備させていただいている。自宅へ退居される際もケアマネとデイサービスの利用等につなげられるように相談を行っている。 | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------|---|----------------|----------------------------------|
| 48 | 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。 | | |
| 49 (19) | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | | |
| 50 | 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。 | | |
| 51 | 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。 | | |
| 52 | 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。 | | |
| 53 (20) | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。 | | |
| 54 | 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。 | | |
| 55 | 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|--|----------------------------------|
| <p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p> | | | |
| 56 (21) | <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p> | <p>利用者の個人の尊厳を大切に、尊敬と愛情を持った言葉かけをスタッフ全員ができるようにしている。また記録なども個人情報の取り扱いなどに十分配慮している。</p> | |
| 57 | <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p> | <p>利用者の方々のそれぞれの状態に合わせて対応ができるようスタッフは十分な観察を行い、タイミングも合わせながら利用者から要望が聞きだせるよう支援している。</p> | |
| 58 | <p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p> | <p>利用者の方々のできる家事、好きな家事を見極め、場面場面で充足感を持ってもらえるような家事を提供できるよう支援していている。</p> | |
| 59 (22) | <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p> | <p>ゆったりと安心して過ごしていただけるよう一人ひとりのペースを大切にしながら一日過ごしていただくように支援している。</p> | |
| <p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p> | | | |
| 60 | <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p> | <p>家族が付き添われて美容院へ行かれることもあるが、ホームに訪問してくださる二つの美容院を選んでカット等をしてもらっている。髪型、長さは本人の希望に沿いながら美容師の方が対応されている。</p> | |
| 61 (23) | <p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p> | <p>「今日のおかずは何?」と聞かれる利用者が多く、食事を楽しみにされている。準備、片付けも声かけにて行ってくださる方もいらっしゃるが、率先してされる方もおられる。</p> | |
| 62 | <p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p> | <p>ほとんどの利用者がお酒やたばこはされないが、おやつ時などにはコーヒーや紅茶など好まれるものを飲んでもらうように支援はしている。</p> | |
| 63 | <p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p> | <p>その方の排泄パターンをつかむために排泄チェックシートを作成し、時間をみながらトイレ誘導の声かけを行っている。</p> | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り 組んでいき たい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|--|------------------------|----------------------------------|
| 64 (24) | <p>入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。</p> | | |
| 65 | <p>安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p> | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | |
| 66 (25) | <p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p> | | |
| 67 | <p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p> | | |
| 68 (26) | <p>日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p> | | |
| 69 | <p>普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p> | | |
| 70 | <p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p> | | |
| 71 | <p>家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p> | | |
| 72 | <p>家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p> | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------|--|----------------|---|
| 73 | 家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | |
| 74 (27) | 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。 | | |
| 75 (28) | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。 | | |
| 76 | 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。 | | |
| 77 | 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。 | | |
| 78 (29) | 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。 | | 実践的な研修を年に何回か行えるようにしていきたい。 |
| 79 (30) | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。 | | 緊急時にすべての職員が対応できるような体制づくりをしていきたい。 |
| 80 | 再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。 | | 事故報告書は提出ができていないが、ひやりはっと報告書はあまり出ていないため、カンファレンスのときにヒヤリとしたことを話し合う機会を設けている。その際、スタッフ全員で対応策を考えている。危険予知トレーニングも研修にて行った。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|--|----------------|---|
| 81 (31) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。 | | 駐車場等も広いので地域へ避難場所としての啓発等も行えていけたらと思う。 |
| 82 | リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | |
| 83 | 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。 | | バイタルチェックを朝、夕2回行い、異変時には早急に対応できるようにしている。医療が必要な場合等をしっかり見極め対応している。 |
| 84 (32) | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。 | | 配薬箱にスタッフが準備をし、服薬も手渡し、服薬確認をしている。処方の変更があった場合も治療薬マニュアル等にて作用、副作用等を確認し、副作用の症状が出た場合等、訪問看護師や医師に報告をしている。 |
| 85 | 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。 | | 排便チェックをし、排便がみられないときは水分補給や運動の声かけをし、腸音の確認もしている。 |
| 86 (33) | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。 | | 毎食後の歯磨きの声かけを行っている。また定期的に訪問歯科診療の受診や口腔ケアを受けておられる方もあり、また本人から訴えがあった場合には家族の方に連絡をし、歯科診療を受けられる支援もしている。義歯は每晚洗浄剤に浸し、歯ブラシも定期的に消毒を行うようにしている。 |
| 87 (34) | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | | 毎食の食事量、水分量のチェックを行っている。ほとんど全量食べられる方が多く、水分もしっかり摂られるように支援している。 |
| 88 (35) | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。 | | 感染対策マニュアルを作成し対応している。基本的な手洗い、うがい等はこまめに声かけし行っている。 |
| 89 | 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。 | | 新鮮な食材を使うように買いだめなどは決して行わない。ふきんや調理器具などの消毒も担当を決めてこまめに行うようにしている。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|---|---|---------------------------------|
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり | | | |
| 90 | 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。 | いつでも気軽に入ってこられるようにし、入り口に季節感を出すように飾り付けをし心とんでもらうようにしている。 | |
| 91 (36) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。 | 玄関、廊下、台所、食堂は明るく開放的な造りになっており、利用者がいつでも自由に活用できるようにスタッフも気配りをするとともに四季の花を飾り一緒に鑑賞したり、旬の食材をしようして調理をするなど工夫をしている。また、居室、浴室、トイレはプライバシーを守りながら安全が確保できるよう配慮している。 | |
| 92 | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | 自分の席と決まっている場所もあれば、畳のところでくつろいで座られていることもある。また廊下にもソファを設置し、そこに座られて利用者の方々が何人かでお話をされていることもある。 | |
| 93 (37) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | ベッドや布団はこちらで用意をさせていただいているが、その他のものは今まで使われていたものをなるべく持っていただくように家族にお願いをしている。 | |
| 94 | 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。 | 掃除のときなどご本人の了解を得て窓を開け、換気をしている。その他は随時状況を見てスタッフが換気に配慮し、室温調整も考えながら行っている。 | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | |
| 95 | 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。 | シルバーカーを使用される方もいらっしゃるが、歩行安定時には見守りにで自力で移動していただけるように声かけなども工夫している。独歩の方も前傾姿勢等になられるときは傍で見守り、支援しながら安心して過ごしていただけるように配慮している。 | |
| 96 | わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。 | 日内変動差もあるため、一人ひとりのそのときの状況を見極め、安心して生活が送れるようにさりげない声かけを工夫していくように努めている。 | |
| 97 | 建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。 | 建物周辺の草抜きをスタッフと利用者の方々に年何回か行っている。 | |

| 項目 | | 取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと) | |
|-----------------|--|---|---|
| . サービスの成果に関する項目 | | | |
| 98 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 | <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの | 利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない |
| 99 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 | <input type="radio"/> 毎日ある たまにある | 数日に1 回程度ある ほとんどない |
| 100 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 | <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが | 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 101 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 | <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが | 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 102 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 | ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが | <input type="radio"/> 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 103 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 | <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが | 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 104 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 | <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが | 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 105 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 | <input type="radio"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと | 家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない |
| 106 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 | ほぼ毎日のように <input type="radio"/> たまに | 数日に1 回程度 ほとんどない |
| 107 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 | 大いに増えている あまり増えていない | <input type="radio"/> 少しずつ増えている 全くいない |
| 108 | 職員は、生き活きと働けている。 | <input type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが | 職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 109 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが | 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 110 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | <input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが | 家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない |

自己評価書

【ホームの概要】

| | |
|-------|-------------------|
| 事業所名 | グループホーム オアシス ことしば |
| 所在地 | 宇部市寿町3丁目2番5号 |
| 電話番号 | 0836-37-6512 |
| 開設年月日 | 平成 14 年 11 月 1 日 |

【実施ユニットの概要】 (4月1日現在)

| | | | | |
|---------------|----------------------|---------|---------|---|
| ユニットの名称 | グループホーム オアシス ことしば 弥生 | | | |
| ユニットの定員 | 9 名 | | | |
| ユニットの 利用者数 | 9 名 | 男性 0 名 | 女性 9 名 | |
| | 要介護1 | 2 | 要介護4 | 1 |
| | 要介護2 | 4 | 要介護5 | |
| | 要介護3 | 2 | 要支援2 | |
| 年齢構成 | 平均 87,6 歳 | 最低 78 歳 | 最高 97 歳 | |

【自己評価の実施体制】

| | |
|-------|--|
| 実施方法 | 外部評価の自己評価表に、何が問われているかの内容を職員に把握していただき、夜勤者の方に意見を書き込んでいただいた。また日勤者には意見を聞きながら最終的に全体をまとめ管理者が打ち込みをしました。 |
| 評価確定日 | 平成 21 年 5 月 11 日 |

【サービスの特徴】

【環境面】 わがグループホームは併設型で、総合施設として建在する。宇部市の中心に位置し、交通の便もよく施設の窓からは公園の木々が見え街の中とは思えない四季の移り変わりを感じながら過しています。地域内にはさまざまな公共機関があり、環境面に恵まれています。

【生活面】 車で5分の位置にショッピングセンターがあり、戸外に散歩、ドライブ、買い物等、利用者の皆様と一緒に掛ける機会を多く持ち楽しんでいる。また施設内では他部署の職員との交流(合同の誕生会・催し物の参加)を通しグループホームの利用者様とも馴染みなり関わりを多く持つことが出来ている。ご利用者様が、案心して暮らせるように、ゆったりと、穏やかに過ごすことが出来るよう職員一同統一した対応でご高齢者の方々を支援しています。

【医面】 医療連携体制もしっかり確立しています。訪問診療体制では月2回主治医の受診を、訪問看護師による月2回の定期健診を行っています。病状悪化時には24時間昼夜を問わず連絡が入られるよう体制は整えています。

【食事面】 火、木、土のみは利用者様と一緒に献立を考え調理します。その他はサテライトより上がってきます。食事は利用者様の状態に合わせてお出ししています。

【ボランティア】 月1回ボランティア来訪されています。他部署でボランティアさん来訪時には一緒に楽しませていただいています。

【地域交流】 施設の納涼祭、餅つき等行っています。町内清掃には参加させていただいています。

自己評価票

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取 組んでいき たい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------------|--|------------------------|---|
| <p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p> | | | |
| 1 (1) | <p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p> | | 個人個人を尊重し寄り添いながら、自立に向けたケアを行いその人らしくお過ごしいただけるよう支援していきます。 |
| 2 (2) | <p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> | | 利用者様に対して、理念に沿い対応できている。「此处にきて良かった、此处はいい所よ」利用者様に言っていたできるようになってきた。 |
| 3 | <p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p> | | ステーション内に掲示して理念を共有している。また利用者に対して対応上注意することがあれば、繰り返し言葉にし身につけるように指導している。 |
| 4 | <p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p> | | 職員のスキルアップするために、苑内研修で学んだり、カンファレンスを利用し全員で取り組みつつある。 |
| 5 | <p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> | | 地域の中で人として、普通に暮していけるように、地域に出かけて行き、穏やかに元気で過ごしいただけることを実践することで地域の方や、家族にもご理解いただけると思う。 |
| <p>2. 地域との支えあい</p> | | | |
| 6 | <p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p> | | 隣近所の方々と逢った時には会話し気軽に声を掛けている。併設型で1階事務には用事のため立ち寄られるが2階までは上がっては来られない。 |
| 7 (3) | <p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> | | 町内会に入っている。町内行事(清掃日)は参加させていただいている。小学校行事、警察署の催しもお誘い有り、参加している。 |
| 8 | <p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> | | 地域柄、門の外に地域の人たちが出ておられない街である。民生委員の方にお伺いすると近隣は他の地域と違って高齢者の問題に手を出さず事を好まれない方が多いとききました。 |
| | | | シルバーふれあいセンターが近くにあり、散歩の途中による事多い。高齢福祉課の方からも情報を頂き取り組んでみたいと思う。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|---|----------------------------------|
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | |
| 9 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。 | 書き込む事だけに集中せず、何が問われているか、高齢者に対して職員がどうあるべきかを、読み取って欲しいことを伝える。施設内の生活だけに満足するのではなく地域の中の施設であることを強く意識し自己評価の意味を理解して欲しい。 | |
| 10 (5) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。 | 会議に出席された家族の方々に施設内の状況をお話している。自宅の状況とは違ってきている事に驚かれることもある。それまで知らなかったことも聞けることもあり、関わり方の参考にさせていただけることもある。 | |
| 11 (6) | 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。 | 直接には出向くことは無いが、電話で相談、助言を受けることも多い。 | |
| 12 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。 | ご利用者様には、遠距離の親族の方による金銭的な要求あり、認知症を利用され多額の金額の動きもあり、「本人に今度だけ助けて」約束、その繰り返しが見られた為、権利擁護を利用した。その成年後見のことを相談に行き伝えた。 | |
| 13 | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 虐待は施設内も他部署でも目にした事はない。 | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | |
| 14 | 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 契約時、認知症対応する上で、目的達成した予想される姿のみでなく、環境を変えることでのアクシデントやリスクが非常に高いことも説明している。 | |
| 15 | 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 利用者の意見、不満を傾聴し職員間で話し合っている。ケアプランに反映している。 | |
| 16 (7) | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。 | 利用者の暮らしぶりは面会時、電話等でお話している。職員の退職、移動も運営推進会議、弥生だよりで知らせている。 | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|--|----------------|---------------------------------|
| 17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。 | 問い合わせや質問に対して記録を見せている。職員には必要事項の書きもれのないように注意している。 | | |
| 18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。 | 契約時、苦情はどんな細かなことでも気付き、目にされた時は言っていたくように伝えている。その苦情をお聞きし職員間で改善し、その結果を利用者様のサービスに反映していくことになること伝える。受付窓口、第三者委員、手段等を明示している。 | | |
| 19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | | | |
| 20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。 | | | |
| 21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。 | 職員の移動は直接は伝えていない。別れの寂しさを味わなように配慮、採用時は紹介し知らせている。利用者の方からもやめられた後「あの人は」とは聞かれず変化に気づかれていない。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 職員に本人の状況に応じ、新人研修、中堅研修、リーダー研修等に受講を勧めている。施設内も責任ある役割をもってもらい、仕事をしながら研修し資格も取って欲しいと考える。 | | |
| 23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。 | 比較的高年齢名職員配置をしており、利用者様はわが親の年齢のため、食べ物の好み、義歯で食べられる程度か理解できる。男性職員がいればもっと活気よくお過ごしになれるのではと思うこともある。 | | |
| 24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 | グループホーム協議会の活動に参加し交流を図っている。他施設の見学、協議会メンバーとの情報交換も行い自施設の反省や取り組み等を勉強させていただいている。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|--|----------------|--|
| 25 | 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。 | | |
| 26 | 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。 | | 向上心をもって取り組んだことにより実績あれば評価、結果が伴う。それなら頑張りも違うのではないかと？ |
| 27 | 職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。 | | |
| . 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 28 | 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。 | | |
| 29 | 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。 | | |
| 30 | 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | | |
| 31 (13) | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | |
| 32 (14) | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。 | | 生活面での手伝いをしていただき利用者様に支えられている。家族の一員として共に生活し、笑いや感極まって涙することも。喜び、悲しみを共に味わうことで信頼関係が築けていると思う。 |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|--|----------------|----------------------------------|
| 33 | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。 | 面会時に最近の状態を報告し介護計画を通し良くなっている事、低下していることも伝え、予測できるリスク等もお話し家族にもお手伝いの協力をお願いすることもある。 | | |
| 34 | 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。 | 入居時は、施設入居には納得されない方多く、また家族も自分では見れない、他人に任せなくてはいけないとの思いで、ギクシャクされている方を見受ける。互いに笑顔で面会出来るように支援している。 | | |
| 35 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | 施設に入ったから全てを断ち切らず、何処まで支援すれば今迄の関係が保てて行けるか、家族と話し合い支援していくよう手いる。 | | |
| 36 | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。 | 席を決める時は良い関係で過せるよう利用者同士の性格等を配慮してきめている。 | | |
| 37 | 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。 | 入院、退去されても相談を受ける事あり、またその後の改善された情報を訪問され報告されることもある。機会があれば面会に行くこともある。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 38 (15) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 利用者様に馴染んだ仲間と退屈なく生活する実感を味わっていただいている。状態悪化時も人の声、顔、臭い、音等を感じていただき孤独にさせないように過して頂いている。 | | |
| 39 | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | その方を理解するために情報を集め対応を協議している。利用者様の行動や、興奮に付き合うときに情報の中からヒントをいただき対応するようにしている。 | | |
| 40 | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。 | ご本人の日々の状態、心身の状態を観察し状況に応じて対応している。その情報を職員間で共有し対応するようにしている。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------|--|--|---------------------------------|
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | |
| 41 (16) | チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。 | 家族に日々の状態を報告、実践した状況の中から新たな課題について話し次の計画の内容について話し、家族の意向を聞くように努めている。 | |
| 42 (17) | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。 | 日々の変化を職員間で記録に残し内容を全員で把握し状況変化を話し合う。各担当者で、作成したものを発表し、それぞれの意見気付きを話し合い場を設け、他職員の意見も反映し現状に即した計画をたてている。 | |
| 43 | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 介護計画に沿って実践し記録をしている。その中で変化見られれば、新たな計画の指針としている。記録からその方の生活が読み取れるよう、何時から変化したのかわかるように記録に残すように徹底するようにしている。 | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | |
| 44 (18) | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。 | 利用者の状況に応じレベルアップした方、レベルダウンした方に移動をきめるに当たり、家族に十分な説明を行い各部署と協議し連携をとっている。家族からの希望に沿うこともある。 | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | |
| 45 | 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。 | 警察、消防、小学校は地域内にあり協力いただいている。多くのボランティアに支えられている。民生委員にもいろんな情報を頂き地域に出かけることが出来ている。 | |
| 46 | 事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。 | 他施設の勉強会の開催、GH協議会の研修に使用している。地域に開放し町内の会合にも使用可能となっている。 | |
| 47 | 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。 | 自施設でのサービス等で困った場合、介護支援専門員、他サービス事業者に相談し、助言を頂き、情報の収集を行っている | |

| | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------|---|---|----------------|----------------------------------|
| 48 | 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。 | ご本人の状況に応じて権利擁護をお願いする事もある。 | | |
| 49 (19) | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | かかりつけ医は継続していただいている。職員援助の場合は料金発生するため説明している。GHでは自施設のドクターに夜間急変時緊急をお願いしなくてはならない場合もあることを説明し、診察を受ける事があることこの了解を得ている。 | | |
| 50 | 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。 | 著しく症状が悪化した場合は主治医、家族に相談了解をとり専門医の受診援助をしている。 | | |
| 51 | 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。 | 医療連携体制を活用し緊急変化、処置等は相談助言をいただいている。施設内も看護師の配置された他部署の職員に応援いた抱いておこなえている。 | | |
| 52 | 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。 | 骨折で入院の場合は主治医、看護師長、家族と話し合い術後早い時期の復帰を願いリハビリメニューを組んでいただいで受け入れている。内科で入院の場合は、長期になる時は主治医と話し状態落ち着いたら(寝たきりにさせないために)1ヶ月以内に受け入れ住み慣れた場所で過ごしていただいでいる。 | | |
| 53 (20) | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。 | GHの維持が難しい場合は、今後の方針を家族の方と話し合い可能な限りお世話させていただき家族の方も理解いただいでいる。主治医にも家族の気持ちや状態を常に報告している。 | | |
| 54 | 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。 | 24時間の緊急体制が引かれ対応している。訪問診療、訪問看護の診療で変化を伝えやすく、指示を受けやすくなっている。深夜も主治医への電話の対応も十分に行えている。状況によっては往診もしていただいでいる。 | | |
| 55 | 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 入居時、住み慣れたところから離れて新たな方、場所に馴染むには容易でない事を家族に理解していただいでいる。家族は面会を控えようとされるが馴染まれるまで顔を見せ安心できるようにしていただいでいる。別の場所に移り住む場合もご本人に適している所を探している | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|--|----------------------------------|
| <p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p> | | | |
| 56 (21) | <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p> | <p>ご本人の自尊心を傷つけない対応はしていると思う。言葉掛けや記録等で見聞きした時はその都度何がいけないのか、記録の表現をどう書くのか、本人に注意している。</p> | |
| 57 | <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p> | <p>言葉掛けをし何を訴えたいのか、ゆったり本人の気持ちを聞き気持ちに沿うようにはしている。</p> | |
| 58 | <p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p> | <p>出来る方には手伝いをお願いしている。出来ない方にも出来る事をお願いするようにしている。自室の衣類整理等は担当者が気を付け整理している。</p> | |
| 59 (22) | <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p> | <p>1日をゆったりと本人に合わせて支援している。ご本人の状態に合わせて、行事や生活に参加していただいている。職員優先にならぬよう常に職員には意識を持つように、またいつもの状態より変わる時は利用者様に説明し了解を取っている。</p> | |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 60 | <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p> | <p>理美容は業者が2社入っている。入居後は家族の方より施設のほうで行うことを希望されている。今では業者との馴染みもできている。</p> | |
| 61 (23) | <p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p> | <p>野菜を中心としたメニューを考えて調理している。準備は一緒に行い食後は利用者様と一緒に片づけを行っている。食事中は2名食事介助必要な方、見守り促しの必要な方の側で食事している。</p> | |
| 62 | <p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p> | <p>お酒はたしなまれる方はいない。飲み物はコーヒー、紅茶、こぶ茶、ミロ、等を準備して飲んで頂いている。3時のおやつは施設から出ているが、頂き物があれば皆様に食べていただいている。</p> | |
| 63 | <p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p> | <p>排泄は本人の状態を観察し、トイレ誘導、トイレの声掛けを行い失敗を防ぐようにしている。汚染の自覚できない方は気持ちが落ち込まないように配慮、お断りをして確認に入らせていただいている</p> | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|--|---|----------------|--|
| 64 (24) | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。 | その日の状態に合わせて声を掛けながら浴室に誘っている。物事に取り組んで集中されているとき、歌をうたって楽しんでいるときは終わるのを待って声をかけている。拒否あるときは下着更新清拭をしている。 | | |
| 65 | 安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。 | 活動と休息のバランスを取るよう心掛けている。長時間の作業は1時間以内に決め休んでいただくようにしている。就寝時間もさまざまでご自由にされている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 66 (25) | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。 | 何かやることがある、人の役に立っているときは表情も生き生きされているように思う。出来る所を引き出し活躍の場面を作っている。 | | |
| 67 | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | 自己管理できる方は購入されている。自己管理できない方は小額を預かり希望の物を購入している。 | | |
| 68 (26) | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。 | 天候に合わせてできる限り外出を試みている。買い物、ドライブ、催し物観賞、散歩等にご一緒している。 | | 冬時期はお出掛けが少なくなり、下肢の低下が目立ってくる。高齢の為すぐに体調変化があるため施設内の中で活動を増やしていきたい。 |
| 69 | 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。 | 出来る限り全員で出かけるようにしている。家族の方より一緒に出かけることを早めに連絡していただき外出される。一人で外出希望ある場合は安全面を考え、家族に相談、協力していただき対応を決めている。 | | |
| 70 | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 遠方にお住まいの家族の方に元気な様子を写真でお知らせし安心していただいている。面会の少ない方には最近の状態の報告をさせていただいている。 | | |
| 71 | 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | いつでも面会をしていただいている。訪問時にはゆっくり過せる環境にし、茶、コーヒーをだして談話していただけるように心がけている。 | | |
| 72 | 家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。 | 5階にゲストルームあり使用されたことある。そばで付き添われる場合は移動式ベットを使用し宿泊されている。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------|--|----------------|----------------------------------|
| 73 | 家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | |
| 74 (27) | 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。 | | |
| 75 (28) | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。 | | |
| 76 | 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。 | | |
| 77 | 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。 | | |
| 78 (29) | 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。 | | |
| 79 (30) | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。 | | 救急法を勉強して行きたい。 |
| 80 | 再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|--|----------------|----------------------------------|
| 81 (31) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。 | | |
| 82 | リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | |
| 83 | 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。 | | |
| 84 (32) | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。 | | |
| 85 | 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。 | | |
| 86 (33) | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。 | | |
| 87 (34) | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | | |
| 88 (35) | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。 | | |
| 89 | 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|---|---|---------------------------------|
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり | | | |
| 90 | 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。 | 併設型であり気楽に立ち寄れないが訪問自由になっている。事故防止のために1階受付にて訪問記録を記入後に訪問されている。利用者様は自由に出入りされている。 | |
| 91 (36) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。 | 全体的に明るい時は明かりを落とし、暗い時は明るくするよう心がけている。壁画等で季節の変化を表現し、施設の窓からの眺めで季節を満喫できている。 | |
| 92 | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | 北側空間には椅子を置き一人で過したり、談話出来るようしている。外出時の待機場所として、玄関先にも座れる場所を用意している。 | |
| 93 (37) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 新しい物の購入は極力控えていただいている。自宅の部屋にあるものを持ち込んでいただき、環境が変わりすぎることは居心地が悪い事を説明しご理解をいただいている。 | |
| 94 | 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。 | 消臭剤を利用し、特有の臭いの発生を抑える努力、工夫をしている。居室の温度調節、夜間の廊下の保温、ホールの温度は冬季夏季ともに強すぎないように設定またし、室内乾燥に気をつけている。 | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | |
| 95 | 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。 | バリアフリーに設えられ、要所に手擦りがつけられている。歩行不安定な方には手擦り、手引き誘導し車椅子での生活は出来るだけしないようにしている。トイレ等誘導しトイレでの排泄を心がけている。可能な限り自分の足で歩き下肢が弱らないようにしている。 | |
| 96 | わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。 | 本人の何が出来、何が出来ないかを見分け、出来ない部分の声掛け見守りを行いながら混乱を招かないように支援している。出来る方に出来る所の手伝いをお願いしている。 | |
| 97 | 建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。 | 天気の良い日は施設周囲の散歩、屋上に出かけ運動している。ベランダに草花を植え今年もチューリップが綺麗に咲きお部屋に飾り楽しみました。窓から見える桜も今年は綺麗でした。 | |

| 項目 | | 取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと) | |
|-----------------|--|---|--|
| . サービスの成果に関する項目 | | | |
| 98 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 | <input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいの | 利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない |
| 99 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 | <input type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある | 数日に1回程度ある ほとんどない |
| 100 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 | <input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが | 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 101 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 | <input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが | 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 102 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 | ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが | <input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 103 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 | <input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが | 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 104 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 | <input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが | 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 105 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 | <input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と <input type="checkbox"/> 家族の1 / 3 くらいと | 家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない |
| 106 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 | ほぼ毎日のように たまに | <input type="checkbox"/> 数日に1回程度 ほとんどない |
| 107 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 | 大いに増えている あまり増えていない | <input type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない |
| 108 | 職員は、生き活きと働けている。 | ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが | <input type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 109 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | <input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが | 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 110 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | <input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 家族等の1 / 3 くらいが | 家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない |